資料3-1



制度や年齢の垣根を超えたネットワークによる、ひきこもり支援の実現

～支援ネットワークの課題整理のプロセスから連携ツール開発までのモデル的取組～

背景・課題

- ひきこもり支援は、教育・福祉・医療等の多分野にまたがる
- 本人・家族が孤立しやすく、支援内容も個別性が高いため、制度や支援機関の狭間に落ちやすい
- 支援機関の役割や地域資源情報の共有が不足し、適切な支援につながりにくい

取組内容

- 管内2市をモデル市として、ネットワーク構築を支援
  ワーキンググループ、実態調査、ネットワーク会議を実施
- 圏域ネットワーク会議で6市の現状・課題を共有
- 冊子作成・ホームページ更新により、支援情報の発信を強化



成果

- 支援機関同士の相互理解が深まり、「顔の見える関係」づくりが進展
- 市ごとのネットワーク形成状況や課題を把握
- ネットワーク構築に役立つ冊子・ツールを作成
- 官民・分野横断的な連携の重要性を共有



今後の方向性

- 冊子・ツールを活用し、各市の実情に応じたネットワーク構築等を推進
- 講演会等を通じて、圏域全体で支援機関の相互理解を促進
- 広域的な連携をバックアップ

「顔の見える関係」を基盤に、制度や分野を越えた支援ネットワークを圏域全体へ広げていく。

